

官僚OBのベンチャー体験記

とやま起業未来塾

役人時代の友人である自治省の石井隆一君が、三年前に富山県の知事になりました。石井知事は、富山での廃業率が開業率より高い状況を踏まえ、地域経済の活性化のためにも、若者、女性、熟年の志のある起業家を育成する塾をやりたい、是非協力してほしいと、熱心にくだりてくれました。彼の情熱と誠実さにはれて、塾頭をつとめて、三回卒業生を出しました。一期生は三十四名中十七名が、二期生は三十名中十三名が開業しましたので、相応の成果がでていていると思います。

大阪や東京と比べると、やはり、富山での起業志願者の事業化レベルは、相対的にはまだまだといわざるを得ませんが、意欲はなかなかのものですね。塾長や師範も立派な方が多いし、生徒も人間味のある人が沢山います。彼らは、同期の仲間を超えて、OBや先生方とのネットワークを広めているのはとても嬉しいことです。

す。磨けば光るポテンシャルをもっていますが、どこまで光るかは未知数です。

塾長の中尾哲雄さんは、インテックホールディングスの会長兼社長で地元の同友会代表幹事です。正直、地方にはめずらしいと思うくらい立派な経営者です。視野だけでなく、交友関係も広く、いつも輝きを放っています。中尾さん曰く、「夢が人を輝かせ、希望が人を大きくする」「暮らすと生きるは違う。生きるということのは、自分の価値を問い、そのために自分の価値を高めることである。そこで、得られる成功が達成感であり、感動である」と。そして同時に厳しい躰も含めた指導や、叱られることもあります。ちなみに、中尾さんは平成十九年度の財界の経営者賞を受賞されました。

師範の鮎久晴さんも、素晴らしい方です。地元のコーセルの会長ですが、温かい表情をしながら、厳しい事ははっきりと言います。自ら東芝をやめて、事業を育ててきた体験と気概があふれていきます。曰く「欲がなければ起業出来ないが、欲を出したら倒産する。雪と欲は積もるほど、道を忘れる」「一燈照隅。即ちロウソク



一柳 良雄

いちりゅう・よしお
1946年1月生まれ。68年東京大学卒業、73年ハーバード大学卒業。68年通産省入省、93年近畿通産産業局長、96年総務審議官。2000年一柳アソシエイツ代表取締役&CEOに就任。著書に「元氣と知恵の経営」、「一柳良雄のベンチャー実践塾」等がある。

クは我が身を削ってまわりを照らす。利他主義が必要」と。人間力と明確なポリシーをもっておられ、体ごとぶつかって学べる方です。

私も皆さんに負けない情熱で、毎回富山に行けば講義をするだけでなく、他の講師陣がきちんとやっているかを監視(?)し、更には塾生や塾生OBと夜遅くまで酒を媒介に本音でぶつかりあい、彼らの心に火をつけ、人間力をつけるキッカケを作る為の取り組みを続けてきました。

ローマは一日にしてならず。人を育てるには時間がかかります。しかし、彼らが経営者としての基本と専門的知識を学び、それを実践して成長して、開業率が増え、地域経済の活性化に少しでも寄与してくれればと、仲間の人たちと明るく、楽しくやっていると、継続につながるのだと信じています。

色々なフォーラムや研修、塾に参画していますが、プロの大経営者が、若い起業志願者に基本を教え、正すべきところは、厳しく叱るといふ、このやり方は、財界の方々にも真似て頂きたい。それは、後継を育成するという「未来に対する責務」でもあると思うからです。